

改訂日 2024年4月1日 (第11版)

## 製品安全データシート

### 1. 製品及び会社情報

製品名	オプティガード 20EC
デザインコード	A14627C
会社名	シンジェンタジャパン株式会社
住所	〒104-6021 東京都中央区晴海1丁目8番10号オフィスタワーX 21階
担当部門	HSEグループ
電話番号	03-6221-1027
Eメールアドレス	SDS-JP@syngenta.com
緊急連絡先	同上
緊急連絡電話番号	日本中毒情報センター 中毒110番 一般市民向け受信相談(情報料無料): 大阪(365日・24時間): 072-727-2499 つくば(365日・24時間): 029-852-9999 医療機関専用有料電話(1件につき2000円): 大阪(365日・24時間): 072-726-9923 つくば(365日・24時間): 029-851-9999
推奨用途	木部用防蟻・防腐剤

### 2. 危険有害性の要約

化学品のGHS分類	
急性毒性(経口)	区分4
皮膚腐食性・刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1
生殖毒性	区分1B
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	区分1(中枢神経系、腎臓) 区分3(麻酔作用)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	区分1(中枢神経系) 区分2(肝臓、腎臓, 甲状腺, 造血系)
水生環境有害性 短期(急性)	区分2
水生環境有害性 長期(慢性)	区分2
※ 記載がないものは「区分に該当しない」または「分類できない」	
GHSラベル要素	

絵表示又はシンボル



注意喚起語:

危険

危険有害性情報:

H302 飲み込むと有害

H315 皮膚刺激

H318 重篤な眼の損傷

H336 眠気又はめまいのおそれ

H360 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ

H370 中枢神経系、腎臓の障害

H372 長期にわたる、または反復ばく露による中枢神経系の障害

H373 長期にわたる、または反復ばく露による肝臓、腎臓、甲状腺、造血系の障害

H401 水生生物に毒性

H411 長期継続的影響により水生生物に毒性

注意書き:

安全対策

P201 使用前に取扱説明書を入手すること。

P202 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

P260 ミスト／蒸気を吸入しないこと。

P264 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。

P270 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

P271 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

P273 環境への放出を避けること。

P280 保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。

応急措置

P301 + P312 飲み込んだ場合: 気分が悪い時には医師に連絡すること。

P308 + P313 ばく露またはばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当を受けること。

P330 飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。

P302 + P352 皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。

P304 + P340 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

P305 + P351 + P338 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P314 気分が悪い時には、医師の診察/手当を受けること。

P308 + P311 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。

P310 直ちに医師に連絡すること。

P332 + P313 皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察/手当を受けること。

P362 + P364 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

- P391 漏出物を回収すること。  
 保管 P405 施錠して保管すること。  
 P403 + P233 換気の良いところで保管すること。容器を密閉しておくこと。  
 廃棄 P501 内容物や容器を廃棄する場合、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

GHS 分類に該当しない他の危険有害性  
 知見なし。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物  
 成分

化学名	CAS No.	含有量 (%)	化審法(ENCS)/ 安衛法 (ISHL) 番号
チアメキサム	153719-23-4	2.0	化審法 (5)-6844
チアベンダゾール	148-79-8	4.0	化審法 (9)-820、(9)-1851/安衛 法 8-(7)-224
シプロコナゾール	94361-06-5	2.0	化審法 (5)-6266
ベンジルアルコール	100-51-6	30-40	化審法 (3)-1011
有機溶剤、界面活性剤等	非公開	残	-

### 4. 応急措置

- 一般的アドバイス 緊急連絡先、中毒情報センターや医師に電話する場合、または治療を受けに行く場合は、製品容器、ラベル、安全データシートを手元に用意する。
- 吸入した場合 被災者を空気の新鮮な場所に移す。  
 呼吸が不規則または停止している場合は、人工呼吸を行う。  
 患者を暖かく安静にしておく。  
 直ちに医師または日本中毒情報センターに連絡する。
- 皮膚に付着した場合 直ちに汚染された衣類を脱ぐ。直ちに多量の水を用いて洗い流す。皮膚の炎症が継続する場合は、医師に連絡する。汚染された衣類は再使用する前に洗濯する。
- 眼に入った場合 直ちに多量の水で 15 分間以上まぶたの内側も含め洗う。コンタクトレンズを外す。医師の診察／手当を受ける。
- 飲み込んだ場合 直ちに医師の手当を受ける。医師に製品容器又はラベルを見せる。  
 無理に吐かせない。石油留分及び/または芳香族溶剤を含む。
- 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状 吸引すると肺浮腫と肺炎を起こす可能性がある。  
 皮膚及び眼刺激。  
 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。  
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ。  
 授乳中の子に害を及ぼすおそれ。

医療関係者への情報

臓器の障害のおそれ。  
長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ。  
特定の解毒剤はない。  
対症療法を行う。  
吐かせない。石油留分及び/または芳香族溶剤を含む。

## 5. 火災時の措置

消火剤	小規模火災時:	水噴霧、耐アルコール泡消火剤、粉末消火剤、二酸化炭素を使用すること。
使ってはならない消火剤	大規模火災時:	耐アルコール性泡消火剤、噴霧放水 棒状水による消火は、火災が激しくなったり飛び火したりするので、行ってはならない。
特有の危険有害性		可燃性有機成分を含有するため、火災時に有害性物質を含む黒煙が発生するおそれがある(「10. 安定性及び反応性」参照)。 分解生成物へのばく露は健康を害する可能性がある。
特有の消火方法		火災時には消火用水が排水溝ないし水路へ流出しないよう防止すること。
消火を行う者の保護		完全な保護服と自給式呼吸器を着用する。

## 6. 漏出時の措置

### 6.1 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

人体に対する予防措置 「7. 取扱い及び保管上の注意」および「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い必要に応じて保護具を着用する。

### 6.2 環境に対する注意事項

環境に対する注意事項 安全を確認してから、漏出または流出防止の措置をとる。  
河川または下水システムに排水しない。  
製品が河川、湖水または排水管を汚染した場合は、関連当局に連絡する。

### 6.3 封じ込め、浄化の方法及び機材

除去方法 漏出物を閉じ込め、不可燃性の吸収剤(砂、土、珪藻土、バーミキュライト等)を使用して集め、地域/国の規則に従い廃棄するために容器に入れる(項目 13 を参照)。  
汚染面を十分に浄化すること。  
洗剤で拭くこと、溶剤は避けること。  
汚染された洗浄水を保管し、処分する。

### 6.4 参照すべき他の項目

処分上の配慮についてはセクション 13 を参照。「7. 取扱い及び保管上の注意」および「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の措置を行い、必要に応じて保護具を着用する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
安全取扱注意事項	<p>火災に対する特別な対策は必要ない。</p> <p>皮膚や眼への接触を避けること。</p> <p>使用中は飲食及び喫煙を禁止する。</p> <p>個人保護については項目 8 を参照する。</p>
接触回避	知見なし。
保管	<p>特別な保管条件は必要ない</p> <p>換気のよい乾燥した冷暗所で、容器を密閉して保管する。</p> <p>小児の手の届く所には置かない。</p> <p>食品、飲料や飼料と区別して保管する。</p>

## 8. ばく露防止及び保護措置

### 管理濃度 / 基準濃度 / 許容濃度

成分	CAS 番号	指標	管理濃度 / 基準濃度 / 許容濃度	出典
チアトキサム	153719-23-4	TWA	5 mg/m <sup>3</sup>	シンジェンタ社
チアベンダゾール	148-79-8	TWA	5 mg/m <sup>3</sup>	シンジェンタ社
シプロコナゾール	94361-06-5	TWA	0.4mg/m <sup>3</sup>	シンジェンタ社
ベンジルアルコール	100-51-6	管理濃度 許容濃度等  ACGIH (2022 年版)	未設定 最大許容濃度:5 mg/m <sup>3</sup>  未設定	ACGIH 日本産衛学会 (2021 年版)

設備対策	<p>ばく露が避けられない場合、密閉および/または隔離することが、技術的に最も確実な防御手段となる。</p> <p>保護対策の範囲は、使用時のリスクによって異なる。</p> <p>空気濃度を管理濃度 / 基準濃度 / 許容濃度値以下に保つ。</p> <p>取扱い設備は防爆型を使用する。</p> <p>排気装置を付けて、蒸気が滞留しないようにする。</p> <p>液体の輸送、汲み取り、攪拌機の設置についてはアースをとるように設備する。</p> <p>取扱い場所の近くには、高温、発火源となるようなものが置かれないような設備とする。</p> <p>屋内設備の場合は、作業者が直接ばく露しない設備とするか、局所排気装置等により作業者がばく露から避けられるような設備にする。</p> <p>タンク内部等の密閉設備で作業する場合には、密閉場所の底部まで十分に換気できる装置を取り付ける。</p> <p>装置は耐腐食性のある材質を用いて作る。</p> <p>腐食性物質に、作業者が直接接触したり、ばく露したりしないような配慮をする。</p> <p>必要に応じて、追加の労働衛生に関連する情報を求めること。</p>
------	--

保護具	
呼吸用保護具	通常、呼吸用保護具は必要ない。

労働者がばく露限界値を超える濃度にさらされる場合、適切な認定呼吸器を使用すること。

手の保護具	
材質	ニトリルゴム
破過時間	>480min
手袋の厚さ	0.5mm
備考	保護手袋を着用すること。適切な手袋を選ぶには、素材のみでなく、その他の品質に関する特徴を考慮する。製造者によっても違うので、その点にも注意する。手袋の供給業者が提供する透過性および破過時間に関する指示に従う。また、切り傷、擦り傷、接触時間など、製品が使われる特定の環境条件も考慮する。破過時間は、素材の特徴の中でも、手袋の厚さと種類によって決定されるので、その時々測定されなければならない。手袋に劣化または薬品の浸透を示す兆候がわずかにでもある場合は、手袋を破棄し取り替えなければならない。
眼の保護具	特別な保護具は必要ない。
皮膚及び身体の保護具	適した身体防具を選ぶには、そのタイプ、危険物質の濃度や量そして特定の作業場を考慮する。 汚染された衣服は洗浄してから再使用すること。 不浸透性衣服を必要に応じて着用すること。
保護対策	個人用保護具ではなく技術的対策を優先すること。 個人用保護具の選定については専門家のアドバイスを求めること。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	液体
色	黄赤色透明
臭い	溶剤臭
臭いのしきい(閾)値	データなし
引火点	112 °C (第四類第三石油類) 方法:ペンスキーマルテンス密閉式引火点試験
pH	3.0~4.5(1%水溶液)
密度又は相対密度	1.06 g/cm <sup>3</sup> (20 °C)

## 10. 安定性及び反応性

安定性 (危険有害反応可能性)	通常の条件下では安定である。 日光に当たると黄変することがある。 加熱や燃焼により分解し、有毒な硫黄酸化物、硫化水素等を生じる。 塩基、酸化剤と激しく反応し、硫黄酸化物を生成し中毒の危険をもたらす。 皮膚、眼、粘膜を侵す。
避けるべき条件	混触危険物との接触。 高温、高湿、日光、静電気放電。

混触危険物質 塩基類、酸化剤  
危険有害な分解生成物 加熱や燃焼により分解し、有毒ガスを発生する恐れがある。

## 11. 有害性情報

可能性のあるばく露経路の情報 飲み込んだ場合  
吸入  
皮膚接触  
眼に入った場合

### 急性毒性

経口	LD50 300-2000 mg/kg	ラット(♀)
吸入	LD50 >5 mg/L	ラット(4時間) (類似混合物に関するデータ)
経皮	LD50 >2000 mg/kg	ラット(♂、♀) (類似混合物に関するデータ)

### 成分

#### チアマトキサム

急性毒性(経口)	LD50 (ラット, オスおよびメス): 1,563 mg/kg アセスメント: この物質または混合物は急性の経口毒性は無い。
急性毒性(吸入)	LC50 (ラット, オスおよびメス): > 3.72 mg/l ばく露時間: 4 h 試験環境: 粉じん/ミスト アセスメント: この物質または混合物は急性の吸入毒性は無い。
急性毒性(経皮)	LD50 (ラット, オスおよびメス): > 2,000 mg/kg アセスメント: この物質または混合物は急性の皮膚毒性は無い。

#### チアベンダゾール

急性毒性(経口)	LD50 (ラット, メス): > 5,000 mg/kg
急性毒性(吸入)	LC50 (ラット, オスおよびメス): > 0.53 mg/l ばく露時間: 4 h 試験環境: 粉じん/ミスト アセスメント: この物質または混合物は急性の吸入毒性は無い
急性毒性(経皮)	LD50 (ラット, オスおよびメス): > 5,000 mg/kg

#### シプロコナゾール

急性毒性(経口)	LD50 (ラット, オス): 350 mg/kg
急性毒性(吸入)	LC50 (ラット, オスおよびメス): > 2.03 mg/l ばく露時間: 4 h 試験環境: 粉じん/ミスト アセスメント: この物質または混合物は急性の吸入毒性は無い。
急性毒性(経皮)	LD50 (ラット, オスおよびメス): > 2,000 mg/kg アセスメント: この物質または混合物は急性の皮膚毒性は無い。

#### ベンジルアルコール

急性毒性(経口)	【分類根拠】
----------	--------

(1)～(7) より、該当する件数の多い区分 4 とした。

**【根拠データ】**

- (1) ラット LD50:1,200 mg/kg (JECFA FAS48 (2001))
- (2) ラット LD50:1,230 mg/kg (SIDS (2004)、環境省リスク評価第 11 巻 (2013)、PATTY (6th, 2012))
- (3) ラット LD50:1,600 mg/kg (JECFA FAS48 (2001))
- (4) ラット LD50:1,610 mg/kg (SIDS (2004)、PATTY (6th, 2012))
- (5) ラット LD50:1,660 mg/kg (環境省リスク評価第 11 巻 (2013))
- (6) ラット LD50:2,080～2,100 mg/kg (SIDS (2004)、PATTY (6th, 2012)、JECFA FAS48 (2001))
- (7) ラット LD50:3,100 mg/kg (JECFA FS48 (2001)、PATTY (6th, 2012))

急性毒性(吸入)

ガス: データが不足しているので分類されていない。  
粉じん及びミスト: 区分に該当しない。

急性毒性(経皮)

結果

ウサギ

結果

2,000 mg/kg (SIDS (2004)、環境省リスク評価第 11 巻 (2013))、区分4

**皮膚腐食性/刺激性**

皮膚刺激

データが不足しているので分類されていない。

**成分**

**チアマトキサム**

種

ウサギ

結果

皮膚刺激性なし

**チアベンダゾール**

種

ウサギ

結果

皮膚刺激性なし

**シプロコナゾール**

種

ウサギ

結果

皮膚刺激性なし

**ベンジルアルコール**

種

ウサギ

結果

皮膚刺激性なし

**眼に対する重篤な損傷性/眼刺**

**激性**

区分 1 に分類される成分を 3 %以上含有しているため区分 1 とした。

**成分**

**チアマトキサム**

種

ウサギ

結果

眼への刺激なし。

**チアベンダゾール**

種

ウサギ



結果 眼への刺激性なし

シプロコナゾール

種 ウサギ

結果 眼への刺激性なし

ベンジルアルコール

種 ウサギ

結果 中等度の刺激性

呼吸器感作性又は皮膚感作性

皮膚感作性

データが不足しているので分類されていない。

呼吸器感作性

データが不足しているので分類されていない。

成分

チアマトキサム

種 モルモット

結果 皮膚感作性なし。

チアベンダゾール

種 モルモット

結果 皮膚感作性なし。

シプロコナゾール

種 モルモット

結果 皮膚感作性なし。

ベンジルアルコール

【分類根拠】

(1)～(6)より、区分1Aとした。なお、新たな知見に基づき、分類結果を変更した。産衛学会(2019)にて感作性知見が公表されたため、旧分類から皮膚感作性項目のみ見直した(2021年)。

【根拠データ】

(1)日本産業衛生学会では感作性物質皮膚第2群に分類している(産衛学会感作性物質の提案理由書(2019))。

(2)接触性皮膚炎が疑われた患者5,202名に対するパッチテストでは、全患者のうち48名(0.9%)が、また、化粧品へのアレルギー反応のみを示した156名のうち2名(1.3%)が、本物質に感作されていた。(産衛学会感作性物質の提案理由書(2019))。

(3)健常ボランティア19名、皮膚炎患者31名に対するオープンテストにおいて、健常者15名、患者17名に即時型反応として皮膚蕁麻疹が生じた。また、パッチテストでは、本物質による遅延型アレルギーとしてのアレルギー性接触性皮膚炎は健常者、患者ともに全員陰性であった(産衛学会感作性物質の提案理由書(2019))。

(4)化粧品香料原料安全性研究所(RIFM)はヒトボランティアを対象にマキシマイゼーションテストを行った結果、全員陰性であり、ワセリン中10%の本物質によるによる刺激性や感作性の根拠はないとした。ヒトボラ

ンティアを対象とした皮膚繰り返し感作誘導試験では、本物質の20%溶液では56名中5名、15%溶液では46名中5名、7.5%溶液では10名中3名、5%溶液では101名中2名に感作がみられ、3%溶液では107名全員に感作はみられなかった(産衛学会感作性物質の提案理由書(2019))。

(5)感作及び誘発濃度3~20%(3,543 µg/cm<sup>2</sup>~23,622 µg/cm<sup>2</sup>)の用量を用いたヒト反復侵襲パッチテスト(HRIPT)の結果から、本物質の弱~中程度の皮膚感作性の傾向が示唆される。本物質の8,858 µg/cm<sup>2</sup>(7.5%)から23,622 µg/cm<sup>2</sup>(20%)の高用量では、感作された被験者数の増加がみられたとの報告がある(EU REACH CoRAP Substance Evaluation Conclusion(2020))。

(6)本物質に対して様々な程度の陽性反応が示されたとの多数の症例報告がある(EU REACH CoRAP Substance Evaluation Conclusion(2020))。

#### 【参考データ等】

(7)マウス(n=4)を用いた局所リンパ節試験(LLNA)(OECD TG 429、GLP)において、刺激指数(SI値)は1(2.5%)、0.9(5%)、0.5(10%)、0.6(25%)、1.2(50%)であったとの報告がある(CLH Report(2020)、EU REACH CoRAP(2020)、REACH登録情報(Accessed Oct. 2021))。

#### 生殖細胞変異原性

データが不足しているので分類されていない。

#### 成分

##### チアトキサム

生殖細胞変異原性一アセスメント 動物実験において遺伝子の突然変異への影響はなかった。

##### チアベンダゾール

生殖細胞変異原性一アセスメント 動物実験において遺伝子の突然変異への影響はなかった。

##### シプロコナゾール

生殖細胞変異原性一アセスメント 動物実験において遺伝子の突然変異への影響はなかった。

#### 発がん性

データが不足しているので分類されていない。

#### 成分

##### チアトキサム

発がん性一アセスメント 証拠の重要性からすると、発がん性物質として分類されない。

##### チアベンダゾール

発がん性一アセスメント 動物試験において発ガン性の証拠は無い。

##### シプロコナゾール

発がん性一アセスメント 動物試験において発ガン性の証拠は無い。

#### 生殖毒性

データが不足しているので分類されていない。

#### 成分

#### チアメキサム

生殖毒性―アセスメント 証拠の重要性からすると、生殖毒性物質として分類されない。

#### チアベンダゾール

生殖毒性―アセスメント 生殖に対する毒性はない。

#### シプロコナゾール

生殖毒性―アセスメント 動物実験によると発育に悪影響があることが一部立証されている。

#### 特定標的臓器毒性 (単回ばく露)

データが不足しているので分類されていない。

#### 成分

##### チアメキサム

アセスメント この物質または混合物は特定標的臓器毒性物質(反復ばく露)としては未分類。

##### チアベンダゾール

臓器(腎臓)の障害。

##### ベンジルアルコール

#### 【分類根拠】

(1)~(3)より、区分1(中枢神経系、腎臓)、区分3(麻酔作用)とした。新たな情報源の使用により、旧分類から分類結果を変更した。

#### 【根拠データ】

(1) 本物質を34.8%含有する塗膜剥離剤を吸入した45歳男性が、意識障害を来して昏睡状態で緊急搬送され、血圧低下、進行性の代謝性アシドーシスと尿細管障害による多尿を示し、急性ベンジルアルコール中毒と診断された(伊藤ら、日救急医学会誌. vol. 29, p.254 (2018))。事故原因となった剥離剤の他の成分(及び含有量)は、製品のSDSには水(50%以上)、リン酸(1~5%)、ナフタリン及び過酸化水素(いずれも1%未満)と記載されており、上記の影響は本物質によると考えられる。

(2) 本物質は、皮膚に塗布、又は1%溶液の皮下注射により局所麻酔に使用された経緯がある(環境省リスク評価第11巻(2013))。

(3) ラットの単回経口投与試験において、抑うつ状態、興奮、昏睡がみられた。影響がみられた用量の記載はないが、LD50値である1,230 mg/kg付近でみられたとすると、区分2に相当する(SIDS(2004))。

#### 特定標的臓器毒性(反復ばく露)

データが不足しているので分類されていない。

#### 成分

##### チアメキサム

この物質または混合物は特定標的臓器毒性物質(反復ばく露)としては未分類。

##### チアベンダゾール

長期にわたる、又は反復ばく露により臓器(腎臓、甲状腺、造血系)の障害のおそれ。

##### シプロコナゾール

##### アセスメント

長期にわたる、又は反復ばく露により臓器(肝臓)の障害のおそれ。

**成分**

シプロコナゾール

標的臓器

肝臓

アセスメント

この物質または混合物は特定標的臓器毒性物質、反復ばく露、区分2に分類される。

誤えん有害性

データが不足しているので分類されていない。

**成分**

チアメキサム

データが不足しているので分類されていない。

チアベンダゾール

データが不足しているので分類されていない。

シプロコナゾール

データが不足しているので分類されていない。

ベンジルアルコール

データが不足しているので分類されていない。

**12. 環境影響情報**

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性)

区分2 1-10 mg/L (甲殻類:オオミジンコ)  
10-100 mg/L (魚類:コイ)

**成分**

チアメキサム

魚毒性

LC50 (Oncorhynchus mykiss (ニジマス)): > 100 mg/l  
ばく露時間: 96 h

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性

EC50 (Daphnia magna (オオミジンコ)): > 100 mg/l  
ばく露時間: 48 h

EC50 (フタバカゲロウ属): 0.014 mg/l

ばく露時間: 48 h

EC50 (Chironomus riparius (キロノムス・リパリウス)): 0.035 mg/l

ばく露時間: 48 h

藻類/水生生物に対する毒性

ErC50 (Raphidocelis subcapitata (淡水性緑藻)): > 81.8 mg/l

ばく露時間: 72 h

最大無影響濃度 (Raphidocelis subcapitata (淡水性緑藻)): 81.8 mg/l

エンドポイント: 成長速度

ばく露時間: 72 h

M-ファクター (水生環境有害性 短期(急性))

10

魚毒性(慢性毒性)

最大無影響濃度 (Oncorhynchus mykiss (ニジマス)): > 100 mg/l  
ばく露時間: 28 d

試験タイプ: 流水式試験

最大無影響濃度 (Oncorhynchus mykiss (ニジマス)): > 20 mg/l

ばく露時間: 88 d

試験タイプ: 初期生活段階

ミジンコ等の水生無脊椎動物に対する毒性 (慢性毒性)

最大無影響濃度 (Daphnia magna (オオミジンコ)): 100 mg/l

ばく露時間: 21 d

最大無影響濃度 (Chironomus riparius (ユスリカ幼生)): 0.01 mg/l

ばく露時間: 30 d

M-ファクター (水生環境有害性 長期(慢性)) 微生物に対する毒性	10 EC50 (活性汚泥): > 100 mg/l ばく露時間: 3 h
<b>チアベンダゾール</b>	
魚毒性	LC50 (Oncorhynchus mykiss (ニジマス)): 0.55 mg/l ばく露時間: 96 h
ミジンコ等の水生無脊椎動物に 対する毒性	LC50 (Americamysis (アメリカミシス)): 0.34 mg/l ばく露時間: 96 h
藻類/水生生物に対する毒性	ErC50 (Raphidocelis subcapitata (淡水性緑藻)): 14.7 mg/l ばく露時間: 96 h 最大無影響濃度 (Raphidocelis subcapitata (淡水性緑藻)): 0.53 mg/l エンドポイント: 成長速度 ばく露時間: 96 h
M-ファクター (水生環境有害性 短期(急性)) 魚毒性 (慢性毒性)	1 最大無影響濃度 (Oncorhynchus mykiss (ニジマス)): 0.012 mg/l ばく露時間: 69 d 最大無影響濃度 (Pimephales promelas (ファットヘッドミノウ)): 0.11 mg/l ばく露時間: 33 d
ミジンコ等の水生無脊椎動物に 対する毒性 (慢性毒性)	最大無影響濃度 (Daphnia magna (オオミジンコ)): 0.041 mg/l ばく露時間: 21 d
M-ファクター (水生環境有害性 長期(慢性)) 微生物に対する毒性	1 EC50 (活性汚泥): > 1,000 mg/l ばく露時間: 3 h
<b>シプロコナゾール</b>	
魚毒性	LC50 (Oncorhynchus mykiss (ニジマス)): 19 mg/l ばく露時間: 96 h
ミジンコ等の水生無脊椎動物に 対する毒性	EC50 (Daphnia magna (オオミジンコ)): 26 mg/l ばく露時間: 48 h
藻類/水生生物に対する毒性	EC50 (Desmodesmus subspicatus (緑藻)): 0.077 mg/l ばく露時間: 96 h 最大無影響濃度 (Desmodesmus subspicatus (緑藻)): 0.021 mg/l ばく露時間: 96 h ErC50 (Lemna gibba (イボウキクサ)): > 0.2 mg/l ばく露時間: 7 d 最大無影響濃度 (Lemna gibba (イボウキクサ)): 0.025 mg/l エンドポイント: 成長速度 ばく露時間: 7 d
M-ファクター (水生環境有害性 短期(急性)) 魚毒性 (慢性毒性)	10 最大無影響濃度 (Oncorhynchus mykiss (ニジマス)): 0.305 mg/l ばく露時間: 93 d
ミジンコ等の水生無脊椎動物に 対する毒性 (慢性毒性)	最大無影響濃度 (Daphnia magna (オオミジンコ)): 0.023 mg/l ばく露時間: 21 d
M-ファクター (水生環境有害性 長期(慢性))	1

**ベンジルアルコール**

水生環境有害性 短期(急性)  
魚毒性

魚類(ブルーギル)96時間LC50 = 10 mg/L(環境省リスク評価第11巻, 2013)であることから、区分2とした。

水生環境有害性 長期(慢性)

慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり(BODによる分解度: 94%(既存点検, 1991))、甲殻類(オオミジンコ)の21日間NOEC = 51 mg/L(環境庁生態影響試験, 1997、環境省リスク評価第11巻, 2013)であることから、区分に該当しないとなる。

慢性毒性データが得られていない栄養段階に対して急性毒性データを用いた場合、魚類(ブルーギル)の96時間LC50 = 10 mg/L(環境省リスク評価第11巻, 2013)であるが、急速分解性があり(BODによる分解度: 94%(既存点検, 1991))、生物蓄積性が低いと推定される(log Kow= 1.1 (PHYSPROP Database, 2019))ことから、区分に該当しないとなる。

以上の結果から、区分に該当しないとした。

**残留性・分解性**

**成分**

**チアマトキサム**

生分解性  
水中での安定性

結果: 易分解性ではない  
分解半減期: 11 d  
備考: 製品は持続性ではない

**チアベンダゾール**

生分解性  
水中での安定性

結果: 易分解性ではない  
分解半減期: > 1 yr  
備考: 水中において難分解性。

**シプロコナゾール**

生分解性  
水中での安定性

結果: 易分解性ではない  
分解半減期: 5 d (20 ° C)  
備考: 製品は持続性ではない

**ベンジルアルコール**

化審法分解度試験

良分解性(化学物質安全性点検結果等(分解性・蓄積性))

**生体蓄積性**

**チアマトキサム**

生体蓄積性  
n-オクタノール／水分配係数  
(log 値)

備考: 低い生態蓄積性。  
log Pow: -0.13 (25 ° C)

**チアベンダゾール**

生体蓄積性  
シプロコナゾール

備考: 生物濃縮されない

**生体蓄積性**

n-オクタノール／水分配係数  
(log 値)

備考: 生物濃縮されない  
log Pow: 3.1 (25 ° C)

**ベンジルアルコール**

情報なし

**土中の移動性**

**成分**

**チアマトキサム**

環境中の分布  
土中での安定性

備考: 土壌中で中程度に移動する  
消失時間: 51 d

	消失割合: 50 % (DT50) 備考: 製品は持続性ではない
<b>チアベンダゾール</b> 環境中の分布 土中での安定性	備考: 地中において低移動性。 消失時間: 33 d - 2 yr 消失割合: 50 % (DT50) 備考: 地中において難分解性。
<b>シプロコナゾール</b> 環境中の分布 土中での安定性	備考: 土壌中で中程度に移動する 消失時間: 100 - 124 d 消失割合: 50 % (DT50) 備考: 製品は持続性ではない
<b>オゾン層への有害性</b> 非該当	
<b>他の有害影響</b>	
<b>成分</b>	
<b>チアメキサム</b> PBT および vPvB の評価結果	物質は、難分解性、生体蓄積性、毒性 (PBT) ではない。物質は、極めて難分解性、高生体蓄積性 (vPvB) ではない。
<b>チアベンダゾール</b> PBT および vPvB の評価結果	物質は、難分解性、生体蓄積性、毒性 (PBT) ではない。物質は、極めて難分解性、高生体蓄積性 (vPvB) ではない。

### 13. 廃棄上の注意

廃棄方法	
残余廃棄物	可能ならば、廃棄や焼却処理より再利用の方が好ましい。 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従う。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を十分告知の上、処理を委託する。
汚染容器及び包装	内容物を完全に除去した後に、製品入り容器と同様に処分する。

### 14. 輸送上の注意

<b>国際規制</b>	
<b>陸上輸送(UNRTDG)</b>	
国連番号	UN3082
国連輸送名	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N.O.S. (THIAMETHOXAM)
国連分類	9
容器等級	III
ラベル (Labels)	9
環境有害性	該当

備考 この製品は、単一または内部パッケージあたりの正味量が液体の場合は 5 L 以下、または固体の場合は単一または組み合わせパッケージに正味質量が 5 kg 以下でパッケージされている場合、免除の対象となる可能性がある。

#### 航空輸送(IATA-DGR)

国連番号 UN3082  
国連輸送名 ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N.O.S.  
(THIAMETHOXAM)  
国連分類 9  
容器等級 III  
ラベル (Labels) Miscellaneous  
梱包指示 (貨物機) 964  
(Packing instruction (cargo  
air-craft))  
梱包指示 (旅客機) 964  
(Packing instruction (cargo  
air-craft))  
環境有害性 該当  
備考 この製品は、単一または内部パッケージあたりの正味量が液体の場合は 5 L 以下、または固体の場合は単一または組み合わせパッケージに正味質量が 5 kg 以下でパッケージされている場合、免除の対象となる可能性がある。

#### 海上輸送(IMDG-Code)

国連番号 UN3082  
国連輸送名 ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N.O.S.  
(THIAMETHOXAM)  
国連分類 9  
容器等級 III  
ラベル (Labels) 9  
海洋汚染物質 該当  
備考 この製品は、単一または内部パッケージあたりの正味量が液体の場合は 5 L 以下、または固体の場合は単一または組み合わせパッケージに正味質量が 5 kg 以下でパッケージされている場合、免除の対象となる可能性がある。

環境有害性 該当  
備考 この製品は、単一または内部パッケージあたりの正味量が液体の場合は 5 L 以下、または固体の場合は単一または組み合わせパッケージに正味質量が 5 kg 以下でパッケージされている場合、免除の対象となる可能性がある。

MARPOL 73/78 附属書 II 及び IBC コードによるばら積み輸送される液体物質 (該当・非該当) 供給された状態の製品には非該当

国内規制 特定の国内規制については、「15.適用法令」を参照  
特別の安全対策 ここに提供されている輸送分類は、情報の目的だけのために、本安全データシートの中で解説されるように開梱された材料の特性のみに基づいていません。輸送分類は、交通手段、パッケージサイズと地域や地方の規則の変更により、変更される可能性があります。



## 15. 適用法令

### 関連法規

#### 消防法

危険物第4類第3石油類、非水溶性、危険等級Ⅲ

#### 化審法

優先評価化学物質

#### 労働安全衛生法

#### 製造等が禁止される有害物

非該当

#### 製造の許可を受けるべき有害物

非該当

#### 健康障害防止指針公表物質

非該当

#### 変異原性の認められた化学物質(既存化学物質)

非該当

#### 変異原性の認められた化学物質(新規届出化学物質)

非該当

#### 名称等を通知すべき危険物及び有害物

法第 57 条の 2 (施行令別表第 9)

化学名	含有量(%)	備考
2-(1,3-チアゾール-4-イル)-1H-ベンゾイミダゾール	4	2024年4月1日以降
ベンジルアルコール	35	

#### 名称等を表示すべき危険物及び有害物

法第 57 条 (施行令第 18 条)

化学名	備考
2-(1,3-チアゾール-4-イル)-1H-ベンゾイミダゾール	2024年4月1日以降
ベンジルアルコール	

#### 特定化学物質障害予防規則

非該当

#### 鉛中毒予防規則

非該当

#### 四アルキル鉛中毒予防規則

非該当

#### 有機溶剤中毒予防規則

非該当

#### 労働安全衛生法施行令 - 別表第一 (危険物)

非該当

**毒物及び劇物取締法**

非該当

**化学物質排出把握管理促進法**

第一種指定化学物質

化学名	管理番号	含有量(%)
3-(2-クロロ-1, 3-チアゾール-5-イルメチル)-5-メチル-N-ニトロ-1, 3, 5-オキサジアジナン-4-イミン	615	2

**高圧ガス保安法**

非該当

**火薬類取締法**

非該当

**船舶安全法**

危規則第 2,3 条危険物告示別表第 1: 有害性物質

**航空法**

施行規則第 194 条危険物告示別表第 1: その他の有害物

**大気汚染防止法**

ベンジルアルコール(揮発性有機化合物)

**海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律**

チアベンダゾール、ベンジルアルコール(有害液体物質 Y 類物質)

**廃棄物の処理及び清掃に関する法律**

産業廃棄物

**16. その他の情報**

**記載内容の取扱い**

製品安全データシートは、化学製品を安全に取扱うための参考資料として、当該化学製品を取扱う事業者へ提供されるものであって、安全を保証するものではありません。また、ここに記載された数値は規格値や品質を保証する数値ではありません。

この製品安全データシートは、一般に入手可能な情報及び自社情報に基づいて作成しておりますが、本品(当該製品)に関する全ての情報が網羅されているわけではありません。また、記載内容は当該製品の一般的な取扱いについて記載したものです。従って、当該製品を取扱う事業者は、個々の取扱い等の目的への適合性を判断し、この安全データシートや製品ラベルに記載のものを含め、実状に応じたあらゆる適切な予備的措置を講じてください。

当社のいかなる保証違反においての責任は、製品の交換又は購入額の払い戻しに限られます。当該製品を取扱う事業者が、上記の適切な予備的措置を講じなかった場合、シンジェンタは責任を負いません。

**その他の略語全文**

ACGIH

米国。ACGIH 限界閾値(TLV)

ACGIH BEI

ACGIH - 生物学的ばく露指標( BEI )

安衛法(管理濃度)

作業環境評価基準、健康障害防止指針

日本産業衛生学会

許容濃度等の勧告 - II.生物学的許容値

日本産業衛生学会(許容濃度)

ACGIH / TWA

ACGIH / C

安衛法(管理濃度) / ACL

日本産業衛生学会(許容濃度) / OEL-M

日本産業衛生学会 許容濃度等の勧告 -I.化学物質の許容濃度

8 時間、時間加重平均

天井値

管理濃度、基準濃度

許容濃度